

### <少人数教育>

自ら学ぶ姿勢をサポートするという点も含めて、きめ細かな指導をするために私達が取り入れてきたのが少人数教育だ。ホームルームも授業も最大で24人までとなっている。教室がそのように作られている。数名で行うクラスもあるので、授業の平均生徒数は18人と行ったところだ。こうなると、生徒は受身ではいられない。教師は少人数の利点を生かした授業を展開するからだ。討論、論文、実験、観察を重視した授業によって基礎学力をしっかりとつけ、表現力を引き出すことも重視される。はっきり言って生徒の負担は少なくない。十分に絞られる。校則で押さえつけられることはあまりないが、学習では覚悟しておいてもらいたい。だから、授業の量も自分で調整できるようになっている。これも学期完結制の特徴だ。

インターナショナルスクールも入れて700人くらいの、この小さな学校は家庭的な雰囲気に溢れている。ここ数年間の編入生達が春からの新入生のオリエンテーションを手伝ってくれた。登校日でもないその日に歓迎会を企画した学年があった。その、春の新入生達が秋の編入生のオリエンテーションのアシスタントになる、といった調子だ。私達は新しい生徒を迎え入れることに慣れている。環境の変化に戸惑った経験を持つ者が多いからだ。

### <よくある質問>

「どれくらいの授業がインターナショナルスクール(OIS)と一緒にできますか？」

学期によって違いがありますが、OIS English(週4時間)、IB History(週4時間)、音楽(週2.5時間)、美術(週4~5時間)、体育(週2.5時間)などがよく選択される授業です。Multi Media(週2時間)というYear Book作成や校内TV放送を担当するスタッフ指導の授業もあります。国語には一部の日本語の得意なインターの生徒が入ります。これらで半分以上の授業をインターナショナルスクールとともに過ごすこともできますが、実際には英語を中心に週4から10時間くらいをOISと過ごし、後は自分の興味や将来に備えるための授業を日本語で受けている生徒が多いようです。逆に、OISに入学するということもあり得ると思います。

「学校の説明はよくわかりました。では、先生はご自分のお子さんをここに入学させたいですか？」

えーっと、厳しい質問ですね。でも、大丈夫。実際に多くの職員が子供を通わせています。校長先生のふたりのお子さんはOISを卒業しました。前回この欄に登場した井藤先生も3人のお子さんがこの学校に来ています。

### <生徒が活躍できる学校>

「これまでの学校は固定観念の塊。」偉そうにこう言う私も驚かされたことが最近あった。去年の4月に千里国際学園の中等部1年生に入学した私の娘が夏前にはバレーボール部に入り、冬からは、サッカー部に顔を出しているのだ。おとなしくて、引込み思案で運動部とは縁がなさそうな娘が、である。千里国際学園のクラブがシーズン制であることと、外国人コーチの心の広さのためか、全くの初心者でも気軽に受け入れてくれる雰囲気があるからなのだろう。私自身授業関係では教育改革の先端を見つめているつもりであったが、課外活動には目が向いていなかった部分のあったことに改めて気づかされた。

そういえば、同じく千里国際学園に在籍している私の息子が生徒会長に立候補して仰天したこともあった。この学校では、いろいろな所で多くの生徒が活躍している。そのような場があったところに設けられている。そこで自信をつけた生徒がまた新しいチャレンジを始める、という好循環がある。インターカレッジという校内誌を一度見て頂くとその一端が判ってもらえると思う。

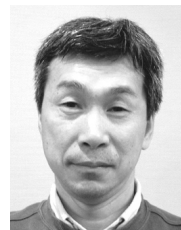
この学校のユニークさ、深さは私には伝えきれない。次の方にバトンタッチしよう。

#### 真砂 和典

まさご かずのり

千里国際学園

東京で生まれ、大学を卒業するまでずっと同じ環境で育ちました。その後は、米国、コネチカットでの大学院生活を皮切りに、英国、ロンドン周辺の私立日本人学校勤務まで合計10年近くを海外で過ごすことになりました。教員以外の職業経験も踏まえて、ここ10年余りは大阪の千里国際学園で、多様な人々が集い、楽しく学び合うシステムづくりとその実践に努力してきました。この報告が本校のホームページ [www.senri.ed.jp](http://www.senri.ed.jp) の研究紀要6号に「学期完結制」として掲載されています。



千里国際学園 中等部・高等部

〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16

電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055

[www.senri.ed.jp](http://www.senri.ed.jp)

[admissions@senri.ed.jp](mailto:admissions@senri.ed.jp)

#### 編集長から一言

新しいチャレンジをどんどんする学校です。良く調べ、具体的な内容を理解してから入学しないと、・・・。

大迫校長から「先生が自分の子どもを入れたがる学校」と自慢話を聞かされたことがある。他の学校の先生に聞いてみたい。